

実施状況報告

○○市長 殿

オレンジ着色箇所：入力してください。

灰色着色箇所：自動で入力されます。

※ 行の挿入等を行う場合は、「校閲」の「シート保護の解除」をクリックしてください。

※ 記載方法は印刷されません。

年度 多面的機能支払交付金に係る実施状況報告書

多面的機能支払交付金実施要綱（平成26年4月1日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知）別紙1の第5の7及び別紙2の第5の10に基づき、多面的機能支払交付金の実施状況について、別添のとおり報告します。

（環境負荷低減の取組への支援を受ける場合）

- 実施経過報告の時点で全て実施済みで報告しているため、環境負荷低減の取組への支援に係る報告を省略します。
- 実施経過報告書を見込みで報告しましたが、内容に変更がないため別紙1及び2を省略し生産記録等のみを提出します。
- 実施経過報告書から変更があったので別紙1及び2のとおり報告します。

（注1）該当する項目の□に■を入れること。

（注2）実施状況経過報告書から変更があった場合は変更があった箇所のみを報告することも可。

（注3）特定事業実施者の場合、「（別添）多面的機能交付金に係る実施状況報告書」を省略できる。

みどり加算に取り組む場合は、別紙1及び別紙2（様式第1-12号 実施経過報告書と共通）を記入し、添付してください。

次年度への持越金が当該年度交付金の3割を超え、かつ、100万円以上である場合には、別紙3を記入し、添付してください。

(様式第1-8号)

【活動組織から市町村に提出するもの】

農林水産省様式

○年○月○日

山形市長 殿

毎年度、活動終了後に活動の実績を実施状況報告にとりまとめて市町村へ提出します。

あいうえお活動組織
多面 太郎

年度 多面的機能支払交付金に係る実施状況報告書

多面的機能支払交付金実施要綱（平成26年4月1日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知）別紙1の第5の7及び別紙2の第5の10に基づき、多面的機能支払交付金の実施状況について、別添のとおり報告します。

（環境負荷低減の取組への支援を受ける場合）

- 実施経過報告の時点で全て実施済みで報告しているため、環境負荷低減の取組への支援に係る報告を省略します。
- 実施経過報告書を見込みで報告しましたが、内容に変更がないため別紙1及び2を省略し生産記録等のみを提出します。
- 実施経過報告書から変更があったので別紙1及び2のとおり報告します。

（注1）該当する項目の□に■を入れること。

（注2）実施状況経過報告書から変更があった場合は変更があった箇所のみを報告することも可。

（注3）特定事業実施者の場合、「（別添）多面的機能交付金に係る実施状況報告書」を省略できる。

多面的機能支払交付金に係る実施状況報告書

組織名称	〇〇・・・・・・・・活動組織
------	----------------

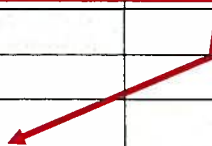
<〇〇年度 収支実績 〇年〇月〇日現在>

収入の部	項目	金額	備考
	前年度からの持越金		
	1. (農地維持・資源向上(共同))		
	前年度からの持越金		
	2. (資源向上(長寿命化))		
	3. 農地維持・資源向上(共同)交付金		
	4. 資源向上(長寿命化)交付金		
5. 利息等			
合計			

「収支実績」は、「金銭出納簿」の集計表を基に自動で作成されます。

支出の部	項目	金額	備考
	支出総額		
	1. (農地維持・資源向上(共同))		
	日当		
	外注費		
	その他		
	2. 支出総額(資源向上(長寿命化))		
	日当		
	外注費		
	その他		
	3. 返還		
	4. 次年度への持越金		
	(農地維持・資源向上(共同))		
	5. 次年度への持越金		
(資源向上(長寿命化))			
合計			

・持越金がある場合は、備考欄に使用予定を具体的に記入してください。
・持越金が当該年度交付金の3割を超え、かつ100万円以上である場合は、備考欄には「別紙のとおり」と記入し、別紙3の「持越金使用予定表」を作成してください。



多面的機能支払交付金に係る実施状況報告書

組織名称	あいうえお活動組織
------	-----------

<〇年度 収支実績 〇年〇月〇日現在>

前年度の実施状況報告書に記載されている「次年度持越額」と同じ金額か。

項目	金額	備考
1. 前年度からの持越金 (農地維持・資源向上(共同))	100,000円	計画書の年当たり交付額ではなく実際に交付された額になっているか。特に長寿命化注意。
2. 前年度からの持越金 (資源向上(長寿命化))	200,000円	
3. 農地維持・資源向上(共同)交付金	2,654,500円	年度末(3月下旬)の利子を計上しているか。
4. 資源向上(長寿命化)交付金	1,840,000円	
5. 利子等	5円	金銭出納簿の収入欄の合計額と同じ金額になっているか。
合計	4,794,505円	

項目	金額	備考
1. 支出総額 (農地維持・資源向上(共同))	1,623,505円	金銭出納簿の経理区分のとおり「1維持共同」と「2長寿命化」に分けて記載します。
日当	120,000円	
外注費		
その他	1,503,505円	
2. 支出総額(資源向上(長寿命化))	1,016,000円	維持・共同の交付金を活用して長寿命化の活動を行った際の費用は経理区分を「1維持・共同」とすること。
日当	300,000円	
外注費	400,000円	
その他	316,000円	
3. 返還	96,000円	当該年度中に返還した場合「〇月〇日返還済み」と明記します。
4. 次年度への持越金 (農地維持・資源向上(共同))	1,035,000円	別紙「持越金の使用予定表」に使用時期、使用内容等を記載してください。
5. 次年度への持越金 (資源向上(長寿命化))	1,024,000円	別紙「持越金の使用予定表」に使用時期、使用内容等を記載してください。
合計	4,794,505円	

R7変更「購入・リース費」は「その他」と統合されました。

「例」春先の草刈り、泥上げ、砂利補修費100,000円など。

1. 総会又は運営委員会の実施時期

実施状況について、以下のとおり、総会又は

開催日	○年○月○日
-----	--------

2. 組織の広域化・体制強化の状況

下記にあてはまる場合は○を記入してください

広域活動組織	特定非営利活動法人
--------	-----------

3. 多面的機能支払交付金に係る事業の成果

「計画」欄：活動計画書において計画した活動に「○」、
 「実施」欄：活動要件を満たした活動項目に「○」、
 要件を満たせなかった場合や実施しなかった
 対象外の活動項目には「-」を記入する。
 「備考」欄：「実施」欄に「×」を記入した場合は要件を

「計画」欄：一部（オレンジ着色セル）を除き、活動計画書をもとに自動で作成されます。
 オレンジ着色セルには、以下を入力してください。
 計画した活動→「○」
 計画外の活動→「-」
 ※点検結果に応じて実施する項目は、点検の結果、実施することとしたものは「計画」欄に○を選択して
 ください。
 「実施」欄：一部（オレンジ着色セル）を除き、活動記録をもとに自動で作成されます。
 オレンジ着色セルには、以下を入力してください。
 実施した活動→「○」
 実施できなかった活動、活動要件を満たせなかった活動→「×」
 対象外の活動→「-」

(1) 農地維持支払

農地維持支払交付金の交付を受けずに活動を実施した場合も記入してください。

活動区分		活動項目	計画	実施	備考
地域資源の基礎的な保全活動	点検・計画策定	1 点検		-	
		2 年度活動計画の策定	-	-	
	研修	3 事務・組織運営等に関する研修			実施（予定）年度：○年
		機械の安全使用に関する研修			実施（予定）年度：○年
	農用地	4 遊休農地発生防止のための保管理	-	-	遊休農地解消面積
		5 畦畔・法面・防風林の草刈り	-	-	
		6 鳥獣害防護柵等の保守管理			
	水路	7 水路の草刈り	-	-	
		8 水路の泥上げ	-	-	
		9 水路附帯施設の保守管理			
	農道	10 農道の草刈り	-	-	
		11 農道側溝の泥上げ			
12 路面の維持					
ため池	13 ため池				
	14 ため池				
	15 ため池				
共通	16 異常気象時の対応		×		

「備考」欄：「実施」欄に「×」を記入した場合、未実施等となった理由を記入してください。
 【R7変更点】
 これまで「実施」欄に「○」を記入した場合に求めている具体的な活動内容等の記入は不要としました。

研修は、5年間の活動期間で各1回実施します。
 実施済みの場合 →「実施年度：令和○年」
 今後実施予定の場合→「実施予定年度：令和○年」
 と記入してください。

活動区分	活動項目	計画	実施	備考
全地域管理の活動の推進	17 農業者の検討会の開催	-	-	
	18 農業者に対する意向調査、現地調査	-	-	
	19 不在村地主との連絡体制の整備等	-	-	
	20 集落外住民や地域住民との意見交換等	-	-	
	21 地域住民等に対する意向調査等	-	-	
	22 有識者等による研修会、検討会の開催	-	-	
	23 その他	-	-	

1. 総会又は運営委員会の実施時期

総会又は運営委員会の議事録等を市町村に提出してください。

実施状況について、以下のとおり、総会又は運営委員会を開催し構成員の了解を得ています。

開催日	令和〇年3月29日
-----	-----------

「開催日」は当該年度の活動や収支決算について総会や運営委員会に諮った日付を記載します。その開催が実施状況報告書(様式1-8)の市町村への提出期限に間に合わない場合は開催予定日での記入も可。(開催予定)と追記するなど。

2. 組織の広域化・体制強化の状況

下記にあてはまる場合は〇を記入してください。

広域活動組織	特定非営利活動法人	活動支援班の設立
		○

3. 多面的機能支払交付金に係る事業の成果

R7変更 活動支援班を設立した場合は「〇」を記入。

「計画」欄：活動計画書において計画した活動に「〇」、計画外の活動項目に「-」を記入する。

「実施」欄：活動要件を満たした活動項目に「〇」、要件を満たせなかった場合や実施しなかった場合に「×」、対象外の活動項目には「-」を記入する。

「備考」欄：「実施」欄に「×」を記入した場合は要件を満たせなかった理由や実施しなかった理由を記入する。

(1) 農地維持支払

R7変更 実施欄が「〇」の場合は具体的な活動内容を記入していましたがR7からは不要になりました。

農地維持支払交付金の交付を受けずに活動を実施した場合

活動区分	活動項目	計画	実施	備考		
地域資源の基礎的な保全活動	点検・計画策定	1 点検	○	○		
		2 年度活動計画の策定	○	○	今後の予定なら「実施予定年度令和〇年」と記入。	
	研修	3 事務・組織運営等に関する研修	-	-	実施(予定)年度: 8年	
		機械の安全使用に関する研修	-	-		
	実践活動	農用地	4 遊休農地発生防止のための保全管理	○	○	
			5 畦畔・法面・防風林の草刈り	○	○	
			6 鳥獣害防護柵等の保守管理	-	-	
			100 融雪剤の散布	○	×	点検の結果取組む必要がなかったため
		水路	101 融雪排水促進のための溝きり	○	×	点検の結果取組む必要がなかったため
			7 水路の草刈り	○	○	
			8 水路の泥上げ	○	○	
			9 水路附带施設の保守管理	-	-	
		農道	10 農道の草刈り	○	○	
			11 農道側溝の泥上げ	-	-	
	12 路面の維持		-	-		
	104 農道の除排雪		○	×	点検の結果取組む必要がなかったため	
ため池	13 ため池の草刈り	○	○			
	14 ため池の泥上げ	-	-			
	15 ため池附带施設の保守管理	-	-			
共通	16 異常気象時の対応	-	-			

今後の予定なら「実施予定年度令和〇年」と記入。

研修は活動期間中(原則5年以内)に1回以上実施すること。

活動計画に位置付けた遊休農地が期間中に解消出来ないと判断した場合は、対象農用地からの除外を検討し、この場合、交付金返還となることに留意。解消した面積分は計画書に明記してある遊休農地面積から減らして変更届を提出します。

オレンジ色のセルは直接入力。計画において機能診断に応じて実施する項目です。実施しない年は計画欄に「-」を記入。実施欄が「x」でも可。その場合は、「機能診断の結果実施する必要がなかったため」など理由を記入します。

広域活動組織においては、協定に参加する全集落で「点検」と「実践活動」を実施する必要があります。

「x」の場合の理由は、「異常気象がなかったため」など記載します。

活動区分	活動項目	計画	実施	備考
活動の進め方の切な推進	17 農業者の検討会の開催	○	○	1取組以上の活動を定め、毎年度実施する必要があります。
	18 農業者に対する意向調査、現地調査	-	-	
	19 不在村地主との連絡体制の整備等	-	-	
	20 集落外住民や地域住民との意見交換等	-	-	
	21 地域住民等に対する意向調査等	-	-	
	22 有識者等による研修会、検討会の開催	-	-	
	23 その他			

(2) 資源向上支払（共同）

資源向上支払交付金（共同）の交付を受けずに活動を実施した場合も記入してください。

活動区分		活動項目	計画	実施	備考	
施設の 軽微な 補修	機能 計画 診断 策定	24 農用地の機能診断	-	-		
		25 水路の機能診断	-	-		
		26 農道の機能診断	-	-		
		27 ため池の機能診断	-	-		
		28 年度活動計画の策定	-	-		
	研修	29 機能診断・補修技術等に関する研修		×	実施（予定）年度：〇年	
	実践 活動	30 農用地の軽微な補修等		×		
		31 水路の軽微な補修等		×		
32 農道の軽微な補修等			×			
33 ため池の軽微な補修等			×			
農村 環境 保全 活動	計画 策定	34 生物多様性保全計画の策定	-	-		
		35 水質保全計画、農地保全計画の策定	-	-		
		36 景観形成計画、生活環境保全計画の策定	-	-		
		37 水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定	-	-		
		38 資源循環計画の策定	-	-		
	実践 活動					
啓発・普及	51 啓発・普及活動	-	-			

活動計画書で行を追加した場合は、同じ行数となるよう行を追加してください。
その場合、「活動項目」、「計画」、「実施」欄は自動入力されませんので、ご注意ください。

「活動計画書」と同じ行数になるよう、この線より上に行を挿入してください。

(2) 資源向上支払（共同）

資源向上支払交付金（共同）の交付を受けずに活動を実施した場合も記入してください。

活動区分		活動項目	計画	実施	備考
施設の 軽微な 補修	機能 計画 策定	24 農用地の機能診断	○	○	広域活動組織においては、協定に参加する 全集落で「機能診断」と「実践活動」を実施する 必要があります。
		25 水路の機能診断	○	○	
		26 農道の機能診断	○	○	
		27 ため池の機能診断	○	○	
		28 年度活動計画の策定	○	○	
	研修	29 機能診断・補修技術等に関する研修	-	-	実施（予定）年度：8年
	実践 活動	30 農用地の軽微な補修等	-	-	研修は活動期間中（原則5年以 内）に1回以上実施します。
		31 水路の軽微な補修等	-	-	
		32 農道の軽微な補修等	○	○	
		33 ため池の軽微な補修等	-	-	
農村 環境 保全 活動	計画 策定	34 生物多様性保全計画の策定	○	○	オレンジ色のセルは直接入力。計画にお いて機能診断に応じて実施する項目です。 実施しない年は計画欄に「-」を記入。実 施欄が「x」でも可。その場合は、「機能診 断の結果実施する必要がなかったため」 など理由を記入します。
		35 水質保全計画、農地保全計画の策定	○	○	
		36 景観形成計画、生活環境保全計画の策定	○	○	
		37 水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動 計画の策定	-	-	
		38 資源循環計画の策定	-	-	
	実践 活動	39 生物の生息状況の把握（生態系保全）	○	○	取り組むテーマを1つ以上定め、そのテー マに該当する計画策定、実践活動を毎年 度1回以上実施する必要があります。
		43 畑からの土砂流出対策（水質保全）	○	○	
		45 植栽等の景観形成活動（景観形成・生活環境 保全）	○	○	
		46 施設等の定期的な巡回点検・清掃（景観形 成・生活環境保全）	○	○	
			-	-	
「活動計画書」と同じ行数になるよう、この線より上に行を挿入してください。					
啓発・普及	51 啓発・普及活動	○	○		

「機能診断の結果」に応じて、「軽微な補修」を実施します。機能診断結果を記録しましょう。

活動区分	活動項目	計画	実施	備考
多 面 的 機 能 の 増 進 を 図 る 活 動	52 遊休農地の有効活用	-	-	
	53 鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化	-	-	
	54 地域住民による直営施工	-	-	
	55 防災・減災力の強化	-	-	
	56 農村環境保全活動の幅広い展開	-	-	
	57 やすらぎ・福祉及び教育機能の活用	-	-	
	58 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	-	-	
	58-2 広域活動組織における活動支援班による活動の実施	-	-	
	58-3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化	-	-	
	59 都道府県、市町村が特に認める活動	-	-	
	60 広報活動・農村関係人口の拡大	-	-	

【58-3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化に取り組む場合（該当取組のみ記載）】

環境負荷低減活動	取組面積
長期中干し	
冬期湛水	
夏期湛水	
中干し延期	
江の設置（作溝実施）	
江の設置（作溝未実施）	

「多面的機能の増進を図る活動」においては、取組面積に関する要件はありませんが、実施状況を把握するため、面積を入力してください。

【加算措置に取り組む場合】

加算措置	計画	実施	備考（参加人数及び内容等を記入）	
農村協働力の深化に向けた活動への支援			実施	
加算措置	計画	実施	実施面積（右記の内訳）	全対象水田面積
水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム）を推進する活動への支援			a	a
加算措置	別紙1及び別紙2に記入してください。			
環境負荷低減の取組への支援				

活動区分	活動項目	計画	実施	備考
多面的機能の増進を図る活動	52 遊休農地の有効活用	○	○	
	53 鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化	—	—	
	54 地域住民による直営施工	—	—	
	55 防災・減災力の強化	○	○	
	56 農村環境保全活動の幅広い展開	○	○	
	57 やすらぎ・福祉及び教育機能の活用	—	—	
	58 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	—	—	
	58-2 広域活動組織における活動支援班による活動の実施	—	—	
	58-3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化	○	○	下の表中に取組面積を記入してください。
	59 都道府県、市町村が特に認める活動	—	—	
	60 広報活動・農村関係人口の拡大	○	○	

【58-3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化に取り組む場合（該当取組のみ記載）】

環境負荷低減活動	取組面積
長期中干し	100 a
冬期湛水	70 a
夏期湛水	0 a
中干し延期	0 a
江の設置（作溝実施）	0 a
江の設置（作溝未実施）	0 a

【加算措置に取り組む場合】

加算措置	計画	実施	備考（参加人数及び内容等を記入）	
農村協働力の深化に向けた活動への支援			実施	
加算措置	計画	実施	実施面積（右記の内数）	全対象水田面積
水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム）を推進する活動への支援	○	○	6,000 a	10,000 a
加算措置	別紙1及び別紙2に記入してください。			
環境負荷低減の取組への支援				

(3) 資源向上支払（長寿命化）

※延べ数量の延長は小数点以下第2位まで記入してください。

※施設単位について、「ため池」は「箇所」、「水路」及び「農道」は「km」とします。

「水路」「農道」でゲート等を施工するなど「箇所」単位とすることが一般的なものであっても、「1箇所=0.01km」として扱い、「km」単位で記入してください。

計画欄は、活動計画書を基に自動で作成されます。

計画					実績			
施設区分	活動項目	内容	延べ数量 (km,箇所)	左記が水路の場合、うち排水路延長(km)	完成数量 (km,箇所)			調査・設計等のみ
					前年度まで	本年度	合計	

活動計画書に位置付けた数量のうち、当該年度の完成数量を記入してください。
延長は小数点以下第2位まで記入してください。

【R7変更点】
排水路には、水路のうち排水機能を有する水路（反復利用等が行われる用排兼用水路を含む）の数量を記入してください。

当該年度に工事を行わず、調査や設計のみを行った場合は「○」を記入してください。

計画計画書で行を追加した場合は、同じ行数となるよう行を追加してください。
その場合、「計画」欄は自動入力されませんので、ご注意ください。

「活動計画書」と同じ行数になるよう、この線より上に行を挿入してください。

以下に当てはまる場合は○を記入してください。

農地中間管理機構の借り受け

甚大な自然災害による特例措置の適用

上記を適用して取り組んだ活動内容

※施設名（○○水路等）及び具体の活動内容（L=○○mの復旧等）を記載すること。

消費税に係る課税事業者の該当の有無

認定農用地内における農地中間管理機構の借受農地の有無により判断してください。
過年度からの継続保有地を含め、借受、保有、受渡をした全てが対象です。

事業実施主体が課税事業者に該当する場合、市町村が定める様式により「仕入れに係る消費税相当額報告書」の提出が必要となります。

【R7変更点】
甚大な自然災害で被災した施設の小規模な被災箇所の補修や復旧等を行った場合（※）、具体の活動内容を施設名を明らかにして記入してください。
（※）多面的機能支払交付金実施要綱別紙1の第4の3並びに別紙2の第4の1の（4）及び第4の2の（3）の規定に基づく特例措置の適用を受けた場合

以下の体制強化の取組に当てはまる場合は○を記入してください。

- ・今年度、新たに構成員が加わった。
- ・今年度、都道府県等が行うマッチングの仕組みを活用した。
（仕組みを活用して人材を確保できた）
- （仕組みを活用したが人材の確保はできなかった）
- ・今年度、新たに集落内外の人材・団体等（※）と連携して活動した
- ※学校、企業、農業に関心のある非農業者等
- ・今年度、新たに土地改良区、JA等に事務を委託した。

活動組織の体制強化の取組状況を把握するため、全ての当てはまる項目に「○」をしてください。

(3) 資源向上支払（長寿命化）

※延べ数量の延長は小数点以下第2位まで記入してください。

※施設単位について、「ため池」は「箇所」、「水路」及び「農道」は「km」とします。

「水路」「農道」でゲート等を施工するなど「箇所」単位とすることが一般的なものであっても、「1箇所=0.01km」として扱い、「km」単位で記入してください。

水路や農道で「ゲート等」を施工した場合は「箇所」の単位が一般的ですが「1箇所=0.01km」として記入します。

計画					実績					
施設区分	活動項目	内容	延べ数量 (km,箇所)	左記が水路の場合、うち排水路延長 (km)	完成数量 (km,箇所)				調査・設計等のみ	
					前年度まで	本年度	左記が水路の場合、うち排水路延長 (km)	合計		
水路	61 水路の補修	水路の老朽化部分の目地補修を行う	1.00 km	0.5 km	0.00 km	0.10 km	0.05 km	0.10 km		
水路	62 水路の更新等	素掘り水路からコンクリート水路への更新	2.00 km	km	0.00 km	0.05 km	km	0.05 km		
農道	63 農道の補修	農道の路肩及び法面の補修	3.00 km		0.00 km	0.20 km	km	0.20 km		
ため池	66 ため池（附帯施設）の更新等	ゲートの更新を行う	1.00 箇所		0.00 箇所	0.01 箇所		0.01 箇所		
水路	115 取水施設の更新	老朽化した取水口の更新を行う	0.01 km	km	0.00 km	0.01 km	km	0.01 km		

計画の欄には、計画書で入力した内容がそのまま反映されます。

オレンジ色のセルに実施した数量を記入します。
(小数点以下2位まで)

「活動計画書」と同じ行数になるよう、この線より上に行を挿入してください。

以下に当てはまる場合は○を記入してください。

農地中間管理機構の借り受け

R7変更特例措置を受けて、補修や復旧した場合に具体的な活動内容を記入します。

甚大な自然災害による特例措置の適用

上記を適用して取り組んだ活動内容

○○水路、L=200mの復旧

※施設名（○○水路等）及び具体的な活動内容（L=○○mの復旧等）を記載すること。

消費税に係る課税事業者の該当の有無

以下の体制強化の取組に当てはまる場合は○を記入してください。

- ・今年度、新たに構成員が加わった。
- ・今年度、都道府県等が行うマッチングの仕組みを活用した。
(仕組みを活用して人材を確保できた)
- ・今年度、新たに集落内外の人材・団体等（※）と連携して活動した。
※学校、企業、農業に関心のある非農業者等
- ・今年度、新たに土地改良区、JA等に事務を委託した。

R7変更マッチングや新たに事務委託をした場合は、当てはまるものに○をつけます。

広域組織の参加集落用

(別記1-5様式第1号)

【参加集落（活動組織）から運営委員会に提出するもの】

令和 年度 多面的機能支払交付金に係る実施計画、活動報告及び運営委員会による活動報告確認

広域活動組織においては、参加集落ごとに作成します。
複数集落で構成される活動組織においては、必要に応じて参加集落ごとに作成します。

参加集落（活動組織）	実施計画	策定日	令和 年 月 日	策定者	〇〇集落 〇〇 〇〇
	【1. 農地維持支払（地域資源の基礎的保全活動）】 当該年度に実施する活動について「○」を記入し、実施予定時期を記入する。 実施しない場合は、「-」を記入する。（研修等、運営委員会が一括して行う場合も「-」を記入する。以下同じ。） 【2. 資源向上支払（地域資源の質的向上を図る共同活動）】及び【3. 資源向上支払（施設の長寿命化を図る活動）】 当該年度に実施する活動について「○」を記入し、活動内容及び数量等を記入する。 実施しない場合は、「-」を記入する。				
活動報告	報告日	令和 年 月 日	報告者	〇〇集落 〇〇 〇〇	
	活動を実施した場合は、活動報告欄に「○」を記入する。なお、活動記録を別途提出する。 活動を実施しなかった場合は、活動報告欄に「×」を記入し、「未実施理由」欄に未実施の理由を記入する。 計画外の項目には「-」を記入する。				
運営委員会	活動報告の確認	確認日	令和 年 月 日	確認者	〇〇運営委員会 〇〇 〇〇
	①運営委員会は参加集落（活動組織）から別途提出される活動記録等により、活動報告の記載内容を確認する。 ②活動報告の内容が適正な場合は「○」を記入する。計画に沿った活動が実施されていない場合は、活動を適正に実施するよう指導し、活動の実施を確認する。その結果活動要件が満たされた場合は、「○」を記入する。 ③必要に応じて現地確認を行い、行った場合は現地確認欄に「○」を記入する。				

確認者は、確認の対象集落とは異なる集落の方としてください。

実施計画欄及び活動報告欄は、参加集落が記入します。

1. 農地維持支払交付金（地域資源の基礎的な保全活動）

活動区分	活動項目	実施計画		活動報告		活動報告の確認		
		実施予定時期	未実施理由	現地確認				
点検・計画策定	点検	○	4月	○		○		
	年度活動計画の策定	○	4月	○		○		
研修	事務・組織運営に関する研修、機械の安全使用に関する研修	-	代表者研修（事務・組織運営等に関する研修）はR6、機械の安全使用に関する研修はR7受講予定	-	代表者研修（事務・組織運営等に関する研修）はR6、機械の安全使用に関する研修はR7受講予定			
	農用地	遊休農地発生防止のための保管理 【遊休農地解消面積】	○	7月	○		○	○
250 a			20 a					
畦畔・法面・防風林の草刈り		○	6月、7月、8月	○				
実践活動	鳥獣害防護柵等の保守管理	○	点検結果に応じて実施時期を決定	○				
	水路	水路の草刈り	○	6月、7月、8月	○			
		水路の泥上げ	○	4月	○		○	
		水路附帯施設の保守管理	-		-			
	農道	農道の草刈り	○	6月、7月、8月	○		○	
		農道側溝の泥上げ	-		-			
		路面の維持	-		-			
ため池	ため池の草刈り	-		-				
	ため池の泥上げ	-		-				
	ため池附帯施設の保守管理	-		-				
共通	異常気象時の対応	○	洪水、台風、地震等の発生後	○				

・活動報告の確認欄は、広域活動組織においては運営委員会が、複数集落で構成される活動組織においては活動組織の事務局が記入します。
・必要に応じて現地確認を行った場合は「○」記入してください。

(続き)

2. 資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）

活動区分	活動項目	実施計画		活動報告		活動報告の確認		
			活動内容、数量等		未実施理由		現地確認	
施設の 軽微な 補修	機能 診断 策 定	農用地の機能診断	○	4月	○		○	
		水路の機能診断	○	4月	○		○	
		農道の機能診断	○	4月	○		○	
		ため池の機能診断	-		-			
		年度活動計画の策定	○	4月	○		○	
	実 践 活 動	機能診断・補修技術等に関する研修	-	令和6年度に実施予定	-	令和6年度に実施予定		
		農用地の軽微な補修等	○	機能診断結果に応じて実施時期を決定	×	機能診断の結果、補修の必要がなかったため未実施		
		水路の軽微な補修等	○	機能診断結果に応じて実施時期を決定	×	機能診断の結果、補修の必要がなかったため未実施		
		農道の軽微な補修等	○	機能診断結果に応じて実施時期を決定	×	機能診断の結果、補修の必要がなかったため未実施	○	
		ため池の軽微な補修等	-		-			
農 村 環 境 保 全 活 動	実 践 活 動	生態系保全	○	8月 生き物調査実施	○		○	
		水質保全	○	8月 水質モニタリング調査を実施	-		○	
		景観形成・生活環境保全	-		-			
		水田貯留機能増進・地下水かん養	-		-			
		資源循環	-		-			

3. 資源向上支払交付金（施設の長寿命化を図る活動）

活動区分	活動項目	実施計画		活動報告		活動報告の確認	
			活動内容、数量等		未実施理由		現地確認
実 践 活 動	水路	○	○○号線水路の老朽化部分の補修 (L=1.00km)	×	水路の補修が想定より難しく、時間がかかることから次年度更新予定		
	水路	○	△-△号用水路を土水路からコンクリート水路への更新	○		○	○
	農道	○	□号線農道の路肩及び法面の補修 (L=2.50km)	○		○	○
	農道	-	□-□号線農道のアスファルト舗装 (L=1.24km)	-			

※参加集落（活動組織）が毎年度それぞれ行おうとする実施計画を運営委員会に提出した後、運営委員会が組織全体として取りまとめた実施計画によって実施計画の変更があった場合には、変更箇所が分かるように記入すること。

長寿命化の実施計画欄は、参加集落が、毎年度行おうとする取組の計画又は要望を記入してください。

長寿命化の活動報告欄は、広域活動組織においては運営委員会が、複数集落で構成される活動組織においては活動組織の事務局が、参加集落の計画又は希望を調整した結果に応じて記入してください。

活動計画書に位置付けられた取組→「○」
活動計画書に位置付けられなかった取組→「-」

(様式第 1 - 12号)

【活動組織から市町村に提出するもの】

農林水産省様式

令和〇年〇月〇日

〇〇市長 殿

〇〇・・・・・・・・活動組織

〇〇 〇〇

年度 多面的機能支払交付金に係る実施経過報告書（環境負荷低減の取組への支援）

多面的機能支払交付金実施要綱（平成26年4月1日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知）別紙2の第5の8に基づき、多面的機能支払交付金の実施経過（環境負荷低減の取組への支援）について、別添のとおり報告します。

- 報告内容は全て実施済みです。
 - 報告内容は見込みのものも含まれます。
- (注) 該当する項目の□に■を入れること。

加算措置「環境負荷低減の取組への支援」（みどり加算）を実施する場合に、毎年度1月31日までに市町村に提出してください。

別紙1及び別紙2（様式第1-8号 実施状況報告書と共通）を記入し、添付してください。

(様式第1-12号)

【活動組織から市町村に提出するもの】

農林水産省様式

令和〇年〇月〇日

山形市長 殿

あいうえお活動組織

多面 太郎

年度 多面的機能支払交付金に係る実施経過報告書（環境負荷低減の取組への支援）

多面的機能支払交付金実施要綱（平成26年4月1日付け25農振第2254号農林水産事務次官依命通知）別紙2の第5の8に基づき、多面的機能支払交付金の実施経過（環境負荷低減の取組への支援）について、別添のとおり報告します。

- 報告内容は全て実施済みです。
- 報告内容は見込みのものも含まれます。

（注）該当する項目の□に■を入れること。

毎年度、活動の内容をとりまとめ実施経過報告書を作ります。別紙1及び別紙2、生産記録を添付して提出します。また、状況がわかる写真が必要となる場合がありますので、市町村へ確認して下さい。

(別紙1) 環境負荷低減の取組への支援

1 実施時期

取組項目	化学肥料及び化学合成農薬を5割以上低減する活動							
	内容	実施時期			作物名	栽培時期		
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月
		月	～	月		月	～	月

オレンジ色箇所：入力してください。
 灰色箇所：自動で入力されます。
 ※ 行の挿入等を行う場合は、「校閲」の「シート保護の解除」をクリックしてください。
 ※ 記載方法は印刷されません。

「作物名」は水稲、麦、豆、いち、野菜、なたね（ブルドウ）
 ストから選択してください。

「a 活動の計画」は、「活動計画書」を基に自動で作成されます。

※ 2月以降に活動が終了する場合は見込みのみを記載してください。
 ※ 必要に応じて欄を追加してください。

2 a 活動の計画 (要件確認のため活動計画から転記)

取組項目	1年目 計画面積 (畦畔除く)	2年目 計画面積 (畦畔除く)	3年目 計画面積 (畦畔除く)	4年目 計画面積 (畦畔除く)	5年目 計画面積 (畦畔除く)	交付単価	1年目 交付上限額	2年目 交付上限額	3年目 交付上限額	4年目 交付上限額	5年目 交付上限額	備考
長期中干し	a	a	a	a	a	800 円/10a	円	円	円	円	円	
冬期湛水	a	a	a	a	a	4,000 円/10a	円	円	円	円	円	
夏期湛水	a	a	a	a	a	8,000 円/10a	円	円	円	円	円	
中干し延期	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝実施)	a	a	a	a	a	4,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝未実施)	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
合計	a	a	a	a	a		円	円	円	円	円	

・「実施面積」は、畦畔、法面を含まない本地面積 (a未
 溝切捨て) を記入してください。
 ・「実施面積」は、報告年度のみ記入してください。

b 実施面積 (報告年度のみ記載すること)

「備考」欄：報告年度の実施面積が計画面積を下回った場合又は「1年目 計画面積」を下回った場合は、その理由を記入する。

取組項目	1年目 実施面積 (畦畔除く)	2年目 実施面積 (畦畔除く)	3年目 実施面積 (畦畔除く)	4年目 実施面積 (畦畔除く)	5年目 実施面積 (畦畔除く)	交付単価	1年目 交付額	2年目 交付額	3年目 交付額	4年目 交付額	5年目 交付額	備考
長期中干し	a	a	a	a	a	800 円/10a	円	円	円	円	円	
冬期湛水	a	a	a	a	a	4,000 円/10a	円	円	円	円	円	
夏期湛水	a	a	a	a	a	8,000 円/10a	円	円	円	円	円	
中干し延期	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝実施)	a	a	a	a	a	4,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝未実施)	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
合計	a	a	a	a	a		円	円	円	円	円	

※ 実施面積は、対象活動別 (同一の対象活動であっても、単箇毎) に、a未満を切り捨てた値を記載してください。

※ 同一圃場に対しては、複数の取組を行った場合に加算されるのは1つのみです。

※ 構成員別実施面積 (別紙3) を添付してください。

「備考欄」：報告年度の実施面積が計画面積を下回った
 場合又は1年目の計画面積を下回った場合、その理由を
 記入してください。

3 添付書類

- ・生産記録
- ・その他都道府県又は市町村が求める書類

(別紙1) 環境負荷低減の取組への支援

1 実施時期

取組項目	化学肥料及び化学合成農薬を5割以上低減する活動						
	実施時期			栽培時期			
内容				作物名			
長期中干し	6月	～	7月	水稲	4月	～	9月
冬期湛水	12月	～	2月	水稲	4月	～	9月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月
	月	～	月		月	～	月

R7変更環境負荷低減(みどり加算)へ取組む場合に生産記録をもとにまとめます。オレンジの箇所はプルダウンで選択できます。

※ 2月以降に活動が終了する場合は見込みのみを記載してください。
 ※ 必要に応じて欄を追加してください。

2 a 活動の計画 (要件確認のため活動計画から転記)

取組項目	1年目 計画面積 (畦畔除く)	2年目 計画面積 (畦畔除く)	3年目 計画面積 (畦畔除く)	4年目 計画面積 (畦畔除く)	5年目 計画面積 (畦畔除く)	交付単価	1年目 交付上限額	2年目 交付上限額	3年目 交付上限額	4年目 交付上限額	5年目 交付上限額	備考
長期中干し	100a	101a	101a	101a	101a	800 円/10a	8,000円	8,080円	8,080円	8,080円	8,080円	
冬期湛水	50a	50a	55a	60a	70a	4,000 円/10a	20,000円	20,000円	22,000円	24,000円	28,000円	
夏期湛水	a	a	a	a	a	8,000 円/10a	円	円	円	円	円	
中干し延期	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝実施)	a	a	a	a	a	4,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝未実施)	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
合計	150a	151a	156a	161a	171a		28,000円	28,080円	30,080円	32,080円	36,080円	

b 実施面積 (報告年度のみ記載すること)

「備考」欄：報告年度の実施面積が計画面積を下回った場合は「1年目 計画面積」を下回った場合は、その理由を記入する。

取組項目	1年目 実施面積 (畦畔除く)	2年目 実施面積 (畦畔除く)	3年目 実施面積 (畦畔除く)	4年目 実施面積 (畦畔除く)	5年目 実施面積 (畦畔除く)	交付単価	1年目 交付額	2年目 交付額	3年目 交付額	4年目 交付額	5年目 交付額	備考
長期中干し	100a	a	a	a	a	800 円/10a	8,000円	円	円	円	円	
冬期湛水	50a	a	a	a	a	4,000 円/10a	20,000円	円	円	円	円	
夏期湛水	a	a	a	a	a	8,000 円/10a	円	円	円	円	円	
中干し延期	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝実施)	a	a	a	a	a	4,000 円/10a	円	円	円	円	円	
江の設置等 (作溝未実施)	a	a	a	a	a	3,000 円/10a	円	円	円	円	円	
合計	150a	a	a	a	a		28,000円	円	円	円	円	

※ 実施面積は、対象活動別(同一の対象活動であっても、単価毎)に、a未満を切り捨てた額を記載してください。

※ 同一圃場に対しては、複数の取組を行った場合に加盟されるのは1つのみです。

※ 構成員別実施面積(別紙3)を添付してください。

3 添付書類

- ・生産記録
- ・その他道府県又は市町村が求める書類

●対象活動:長期中干し

特別栽培農産物の認証を受けている場合は、認定証の写しにより、5割低減の取組の確認を不要とするため、2.以下記載は不要です。認証対象品目以外の品目を取り扱う場合は、2以下記載は必要となります。

組織名	あいうえお活動組織
氏名	多面 太郎

ほ場名	実施面積 (a) ※	作物名 (5割低減)	備考
100-1	100	水稻	

(注1)記入欄が足りない場合は、別様式(任意)を用いることも可。
 (注2)実施時期が複数日ある場合は、「実施時期(開始日)」及び「実施時期(終了日)」いずれも記載すること。
 ※実施面積は法面や畦畔を除いた値とすること

1. 対象活動

実施時期	溝切り実施日	溝切り本数 (本/10a)	備考
6月1日~6月15日	6月2日	10	

(注1)中干しは生育中期に14日以上実施すること。
 (注2)溝切りは10aあたり1本以上実施すること。
 (留意事項)地域の生物相に応じて、地域内に江の設置や中干しを実施しない水田の確保など、生態系保全の対策を検討すること。

2. 使用肥料(5割低減の取組)

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用量(kg/10a)	【5割低減】 化学肥料窒素成分(kgN/10a)	【慣行レベル】 化学肥料窒素成分(kgN/10a)	使用時期	備考
合計						

(注1)化学肥料のほか、指定混合肥料、混合堆肥複合肥料、混合汚泥複合肥料などの化学肥料窒素成分を含む肥料を施用する場合は全て記載すること。
 (注2)適宜、行を追加して記入すること。

3. 使用農薬(5割低減の取組)

農薬名 (商品名、剤型)	用途		【5割低減】 節減対象農薬成分回数	【慣行レベル】 節減対象農薬成分回数	使用時期	備考
合計						

(注1)有機農産物の日本農林規格で使用可能な表B.1の農薬も含め、使用した農薬は全て記入すること。
 (注2)適宜、行を追加して記入すること。

4. 保管書類

現地確認を写真で行う場合

がある項目については、該当する項目の口には■又は✓を記入すること。

●対象活動:冬期湛水

特別栽培農産物の認証を受けている場合は、認定証の写しにより、5割低減の取組の確認を不要とするため、2.以下記載は不要です。

認証対象品目以外の品目を取り扱う場合は、2以下記載は必要となります。

組織名	あいうえお活動組織
氏名	多面 太郎

ほ場名(番号)	実施面積	作物名
1000	50a	水稻

※実施面積は法面や畦畔を除いた値とすること

1. 対象活動

(1) 主な作業

作業名	措置方法 (措置番号を記載)	実施時期	備考
取水措置	①		
漏水防止措置			
定期的な水位管理			

(2) 湛水期間

	実施時期	備考
湛水開始時期	12月5日	
排水開始時期	2月10日	
湛水期間	12月5日～2月10日	

(留意事項)メタン発生量を増加させない及び地耐力の低下を防ぐため春に一時落水して圃場を乾かす(地域の保全対象生物に応じ実施。例えばアカガエル類の産卵が確認された冬期湛水圃場では春落水を行わないなど。)
また、生き物調査などモニタリングを合わせて行うことが望ましい。

2. 使用肥料(5割低減の取組)

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用量(kg/10a)	【5割低減】 化学肥料窒素成分(kgN/10a)	【慣行レベル】 化学肥料窒素成分(kgN/10a)	使用時期	備考
合計						

(注1)化学肥料のほか、指定混合肥料、混合堆肥複合肥料、混合汚泥複合肥料等などの化学肥料窒素成分を含む肥料を施用する場合は全て記載すること。

(注2)適宜、行を追加して記入すること。

3. 使用農薬(5割低減の取組)

農薬名 (商品名、剤型)	用途		【5割低減】 節減対象農薬成分回数	【慣行レベル】 節減対象農薬成分回数	使用時期	備考
合計						

(注1)有機農産物の日本農林規格で使用可能な表B1の農薬も含め、使用した農薬は全て記入すること。

(注2)適宜、行を追加して記入すること。

4. 保管書類

現地確認を写真で行う場合

がある項目については、該当する項目の口には■又は√を記入すること。

取水措置、湛水状況のほか、漏水防止対策(畦畔補強等)の分かる書類も保管してください。

活動記録簿

【活動組織から市町村に提出するもの

活動記録は実施状況報告の根拠となるものであり、市町村による活動要件の確認や指導に不可欠な資料です。

7 年度 多面的機能支払交付金 活動記録

あいうえお活動組織

★「実施時間」には休憩時間を含めず、実働時間を記入してください。

★「活動項目番号」欄には、実施要領別記1-2の国が定める活動指針における活動項目の番号及び要領第1の2の(1)に基づき都道府県が定める要綱基本方針において追加された活動項目の番号を記入します。その他、事務処理は200番、会議等は300番を記入します。

同一日に複数の活動を行った場合は、該当する全ての活動項目番号を左詰めで一列に記入してください。番号欄が足りない場合は、複数行に分けて記入してください。

日付	活動時間	活動参加人数			活動項目番号 (左詰め)			活動内容		備考 (具体的な活動内容を記入)	様式欄外 (参考)		
		農業者	農業者以外	総参加人数	支払区分	活動項目	面談施工した場合○	活動支援明に よる活動の場 合は○					
4/1	1時間	1人		1人			200	-	200 事務処理	活動のお知らせ			
4/1	3時間	5人	2人	7人	2	28	34	35	36	R7変更 開始時刻の記入は必要なくなりました。 2 年度活動計画の策定,28 年度活動計画の策定,34 生 物多様性保全計画の策 定,35 水質保全計画、農地 保全計画の策定,36 景観形 成計画、生活環境保全計画 の策定	備考欄には活動内容を具体的に記入します。		
4/5	3時間	8人	2人	10人	1	24	25	26	27	46	1 点検,24 農用地の機能診 断,25 水路の機能診断,26 農道の機能診断,27 ため池 の機能診断,46 施設等の定 期的な巡回点検・清掃 (景 観形成・生活環境保全)	点検、機能診断 (農用地、水路、 農道、ため池) 地域内の施設の点検清掃	
4/15	2.5時間	20人	10人	30人	300	55					300 会議,55 防災・減災力 の強化	役員会、田んぼダム説明会、堰板 の設置	
6/1		1人		1人	58-						58-3 水管理を通じた環境 負荷低減活動の強化	中干し (6月1日~6月15日、15 日間)	
7/1	6時間	10人	10人	20人	5	7	10	45	4	13	5 畦畔・法面・防風林の草 刈り,7 水路の草刈り,10 農 道の草刈り,45 植栽等の景 観形成活動 (景観形成・生 活環境保全),4 遊休農地発 生防止のための保全管 理,13 ため池の草刈り	農用地、○○水路、○○農道、○ ため池の草刈り、 ○○集落の植栽 (婦人会)	

7/11	6時間	5人	5人	10人	5	7	10	43	8	農地維持, 農地維持, 農地維持, 共同, 農地維持	5 畦畔・法面・防風林の草刈り, 7 水路の草刈り, 10 農道の草刈り, 43 畑からの土砂流出対策 (水質保全), 8 水路の泥上げ	活動支援班による〇〇集落の草刈りと〇〇水路の泥上げ (自治会)	○
8/12	2時間	20人	10人	30人	17					農地維持	17 農業者の検討会の開催	非農業者との連携強化のための検討会	
8/13	2時間	10人	20人	30人	39	51	52	56	60	共同, 共同, 共同, 共同	39 生物の生息状況の把握 (生態系保全), 51 啓発・普及活動, 52 遊休農地の有効活用, 56 農村環境保全活動の幅広い展開, 60 広報活動・農村関係人口の拡大	〇〇水路で生き物調査 (育成会) 子ども達とポスター作り (啓発普及) コスモス鑑賞会 (遊休農地の有効活用) の写真をSNS投稿および回覧板配布 (広報活動)	
10/15	4時間	5人	5人	10人	32	63	66			共同, 長寿命化, 長寿命化	32 農道の軽微な補修等, 63 農道の補修, 66 ため池 (非常施設) の更新等	〇〇農道の補修	
11/2	5時間	20人	10人	30人	61					長寿命化	61 水路の補修	活動支援班による〇〇水路の補修 (恒宮施工)	○
12/5	0.5時間	2人	2人	2人	58-3					共同	58-3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化	湛水ほ場の見回り, 水位管理 (湛水期間: 12月5日~2月10日)	
3/1	1.5時間	3人	2人	5人	62					長寿命化	62 水路の更新等	〇〇水路の更新 (外注、現場立会)	
3/29					200					-	200 事務処理	年間の事務作業は、事務作業日報のとおり	
3/29	1時間	5人	15人	20人	300					-	300 会議	総会	
この線より上に行を挿入してください。													

R7変更 活動内容の中の取組欄がなくなりました。

農業者と農業者以外で、年間最大の活動参加日の人数になっているか。

農業者	20人
農業者以外	20人
合計	40人

様式欄外 (参考)
活動に参加した最大人数

金銭出納簿

【活動組織から市町村に提出するもの】

組織名：

○ 年度 多面的機能支払交付金 金銭出納簿

○○○○○○○○活動組織

- ★ 「分類」欄は、分類番号（1～8）から選択してください。
- ★ 「区分」欄には、農地維持・資源向上（共同）に係る収支は「1」を、資源向上（長期）に係る収支は「1」を記入してください。
- ★ 農地維持・資源向上（共同）の交付金を活用して資源向上（長寿命化）の活動を行ってください。
- ★ 交付金交付前に活動資金を構成員が一時的に立て替えて会計口座へ繰り入れた場合は、収入欄に記入し、一時的な立替額が収入/支出の合計に計上されないようにしてください。

オレンジ着色箇所：入力してください。

灰色着色箇所：自動で入力されます。

※ 行の挿入等を行う場合は、「校閲」の「シート保護の解除」をクリックしてください。

※ 記載方法は印刷されません。

日付	分類	内容	区分	収入 (円)	支出 (円)	残高 (円)	領収書 等番号	活動 実施日	備考	長寿命化 への活用
		購入した資材や日当等の内訳を具体的に記入してください。								
		「分類」は、下部に記載の費目及び内容に該当するものを選択（ブルダウナリスト）してください。 【R7変更点】 これまでの「購入・リース費」は「6 その他支出」に統合しました。								
		領収書と同じ日付（実際に支払を行った日付）を記入してください。 構成員が立替払いを行ったものは、精算した日付を記入してください。								
		「区分」は以下を選択してください。 「農地維持」又は「資源向上（共同）」 → 「1」 「資源向上（長寿命化）」 → 「2」 区別ができない支出 → 「1」								
		領収書等の整理番号を記入してください。 ※領収書は必ず保管してください。 ※領収書はレシートでも構いません。（日付、店名が記入されていない場合は記入してください。また、感熱紙のレシートは、経年により文字が消えてしまうので、コピーも保管してください。）								
		・活動実施日を記入してください。（活動記録の日付と一致させてください。）								
この欄より上に行を挿入してください。										
合計										

※領収書は、通し番号を記入した上で、必ず保管しておいてください。

長寿命化の交付金を維持と共同に充当することは出来ません。

組織名：

7 年度 多面的機能支払交付金 金銭出納簿

あいうえお活動組織

★「分類」欄は、分類番号（1～8）から選択してください。

★「区分」欄には、農地維持・資源向上（共同）に係る収支は「1」を、資源向上（長寿命化）に係る収支は「2」を必ず入力してください。区別ができない収支は「1」を記入してください。

★農地維持・資源向上（共同）の交付金を活用して資源向上（長寿命化）の活動を行った際の費用は、区分を「1」にし、「長寿命化への活用」欄に○を記入してください。

★交付金交付前に活動資金を構成員が一時的に立て替えて会計口座へ繰り入れた場合は、収入欄にその立替額を記入してください。また、返済の際は返済額をマイナスの収入として収入欄に記入し、一時的な立替額が収入/支出の合計に計上されないようにしてください。

日付	分類	内容	区分	収入 (円)	支出 (円)	残高 (円)	領収書 番号	活動 実施日	備考	長寿命化 への活用
		時系列に整理します。								
4/1	1.前年度持越	前年度の持越 (農地維持・共同)	1	100,000						
4/1	1.前年度持越	前年度の持越 (長寿命化)	2	200,000		300,000				
4/20	3.利子等	構成員立替金の繰入れ	2	120,000	3,505	420,000	1		〇〇氏より	
5/15	6.その他支出	お茶購入	1		316,000	416,495	2,3	4/5	〇〇集落	
5/20	6.その他支出	〇〇資材の購入費				100,495	4	11/2	〇〇氏へ	
6/20	2.交付金	(農地維持・共同) 交付金		2,654,500		2,754,995				
6/20	2.交付金	(長寿命化) 交付金		1,840,000		4,594,995				
6/25	3.利子等	構成員立替金の返済		▲ 120,000		4,474,995	5		〇〇氏へ	
7/1	4.日当	草刈り			120,000	4,354,995	6	7/1		
10/10	6.その他支出	〇〇資材の購入費	1		1,500,000	2,854,995	7	10/15	農道舗装用	
3/10	5.外注費	水路の更新	2		400,000	2,454,995	8	3/1	水路の更新	
3/20	3.利子等	利子		5		2,455,000				
3/21	7.返還	返還額の支払 (農地維持・共同)	1		96,000	2,359,000	9			
3/21	4.日当	水路の補修	2		300,000	2,059,000	10	11/2	水路の補修	
		返還金について年度内に返還した場合は記載します。返還予定額は未処理のため持越金に含めます。								
合計				4,794,505	2,735,505	2,059,000				

※領収書は、通し番号を記入した上で、必ず保管しておいてください。

【集計】 2 資源向上（長寿命化）（円）

項目	金額	
	収入	支出
1.前年度持越		
2.交付金		
3.利子等		
4.日当		
5.外注費		
6.その他支出		
7.返還		
次年度への持越（残高）		
合 計		

【集計】 1 農地維持・資源向上（共同）（円）

項目	金額	
	収入	支出
1.前年度持越		
2.交付金		
3.利子等		
4.日当		
5.外注費		
6.その他支出		
7.返還		
次年度への持越（残高）		
合 計		

※「分類」には、下表を参考に該当する費目の番号の番号を記入します。（他組織との交付金のやりとりがある場合は、その旨を備考欄に記載）

番号	費目	内 容（例）
1	前年度持越	前年度からの持越金
2	交付金	農地維持支払交付金、資源向上支払交付金（共同）、資源向上支払交付金（長寿命化）、他の活動組織からの融通額・返還額
3	利子等	利子等、構成員による活動資金の立替金
4	日当	活動参加者に対して支払った日当
5	外注費	補修・更新等の工事等（調査、設計、測量、試験等を含む）に係る建設業者等への外注費、事務の外注費など
6	その他支出	「4.日当」、「5.外注費」以外の支出 具体的には、 ・資材（碎石、砂利、セメントなど）の購入費、活動に必要な機械（草刈り機など）の購入費、パソコンなどのリース費、車両、機械等の借り上げ費、花の種、苗代など ・技術指導等のために外部から招く専門家等への謝金、活動に係る旅費、保険料、文具代及び光熱費の費用、アルバイト等への賃金、草刈り機や車の燃料代、役員報酬、お茶代、加算措置「環境負荷低減の取組に係る支援」の取組を実施する農業者に対する配分など
7	返還	返還金、他の活動組織への融通額・返還額

金銭出納簿の経理区分「1維持・共同」と「2長寿命化」に分けて記載します。

【集計】 2 資源向上 (長寿命化) (円)

項目	金額	
	収入	支出
1.前年度持越	200,000	
2.交付金	1,840,000	
3.利子等		
4.日当		300,000
5.外注費		400,000
6.その他支出		316,000
7.返還		
次年度への持越 (残高)		1,024,000
合計	2,040,000	2,040,000

【集計】 1 農地維持・資源向上 (共同) (円)

項目	金額	
	収入	支出
1.前年度持越	100,000	
2.交付金	2,654,500	
3.利子等	5	
4.日当		120,000
5.外注費		
6.その他支出		1,503,505
7.返還		96,000
次年度への持越 (残高)		1,035,000
合計	2,754,505	2,754,505

R7変更 これまでの「購入・リース費」は「6その他支出」と統合しました。

当該年度中に返還した額を記入する。実施状況報告(様式1-8)に「〇月〇日返還済み」と明記します。

次年度への持越金の使用予定(使用時期、使用内容等)を実施状況報告書(様式1-8)に明記します。

※「分類」には、下表を参考に該当する費目の番号の番号を記入します。(他組織との交付金のやりとりがある場合は、その旨を備考欄に記載)

番号	費目	内 容 (例)
1	前年度持越	前年度からの持越金
2	交付金	農地維持支交付金、資源向上支交付金(共同)、資源向上支交付金(長寿命化)、他の活動組織からの融通額・返還額
3	利子等	利子等、構成員による活動資金の立替金
4	日当	活動参加者に対して支払った日当
5	外注費	補修・更新等の工事等(調査、設計、測量、試験等を含む)に係る建設業者等への外注費、事務の外注費など
6	その他支出	「4日当」、「5外注費」以外の支出 具体的には、 ・資材(砕石、砂利、土など)の購入費、活動に必要な機械(草刈り機など)の購入費、パソコンなどのリース費、車両、機械等の借り上げ費、花の種、苗代など ・技術指導等のために外部から招く専門家等への謝金、活動に係る旅費、保険料、文具代及び光熱費の費用、アルバイト等への賃金、草刈り機や車の燃料代、役員報酬、お茶代、加算措置「環境負荷低減の取組に係る支援」の取組を実施する農業者に対する配分など
7	返還	返還金、他の活動組織への融通額・返還額